



## 優秀賞

## おじいちゃん米

大仙市立花館小学校 五年 進藤優丞

ぼくのおじいちゃんは、農家でお米を作っています。ぼくは小さい頃からよくおじいちゃんについて行き、田んぼへ出かけていました。自転車に乗って砂利道を走って行くのがとても楽しいです。

春は、トラクターに乗ってお米を植える準備をしたり、草を刈ったりしています。種まきをして、苗が少し成長したら、いよいよ田植えです。家族みんなで協力して田植えをしますが、実はぼくの楽しみは、田植え中のおやつです。外でみんなで食べるおやつはなんだかとてもおいしく感じます。

夏は、稲の成長を見守りながら、虫がつかないように消毒剤をまいたり、稲のじやまになる草を刈ったりしています。ぼくにはこの時期手伝えることはありませんが、おじいちゃんがひと休みしている時に、色んなことを話します。虫のこと、草のこと、車のこと、おばあちゃんのこと、近所の人のこと、その他いろいろなことです。おじいちゃんは色んなことを何でも知っています。そしてお米は、いつの間にか大きくなり、気づけば黄金色になっています。

さて、待ちに待った稲刈りです。ぼくの一番好きなコンバインに乗せてもらうのがとても楽しいです。おじいちゃんの稲刈りの

スピードはとてもゆっくりです。となりに乗っているぼくは、何度か寝てしまったことがあります。もう少しスピードを速くすると、もつと早く終わるのにと、おばあちゃんをよく言っています。でもおじいちゃんが言うには、

「稲刈りは競争じゃないんだよ。」

と、言っています。たしかにそう思います。おじいちゃんは大事に大事に育てたお米をていねいに刈りとっているのです。ぼくは、おじいちゃんのおいしいお米の理由が分かった気がします。何年も何十年もお米を育てているおじいちゃんは、プロだなあと感じます。

ぼくは今年、学校で花火米を植えました。ぼくが今まで見てきたおじいちゃんの田植えのようにやってみようと思ったのですが、実際はなかなかうまくは出来ませんでした。やっぱりむずかしいんだと思いました。お米をおいしく育てるために、肥料をまいたり、田んぼの水の調節をしたり、お米を育てる大変さを改めて知りました。

ぼくの将来の夢は、お米を作ることではないけれど、おじいちゃんのお米は、ぼくの元気のもとだし、力になっています。家族みんなおいしいお米を食べていつまでも元気でいてもらいたいです。秋にはいよいよ花火米の収穫です。おじいちゃん米と、どちらがおいしいのか、おじいちゃんにぜひ食べ比べてもらいたいです。